

全体の概要

本校正答率は、県の正答率をやや上回る。到達度分布でも、「十分達成」「おおむね達成」が県よりも高く、「要努力」の生徒の割合が県よりも大きく下回っている。無答率も低く、何とかして答えようという意欲が見られる。領域別では、「話す・聞く」が県をやや下回っており、論理的に話す力、的確に聞き取る力を伸ばさなくてはならない。なお、意識調査における「国語の勉強は好きだ」に「当てはまらない」と答えた生徒は2.3%で、県の10.4%を大きく下回り、ほとんどの生徒が国語の学習に意欲的に取り組んでいるといえる。ただ、相変わらず「読書は好きだ」と答える生徒の割合が県を大きく下回っている。「読む」力の向上のためにも、読書量を上げる手立てを考えたい。

	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取組
話すこと・聞くこと	<p>本校正答率は、県の正答率をやや下回っている。「本筋から外れている話し合いの方向を司会として元に戻す発言を書く」問題と漢語を小学2年生に分かる表現に書き換える問題の正答率が、極端に低くなっている。また、「主張と根拠が明らかになるように発言の構成を修正する」問題は選択肢で答えるものであったが、県の正答率より大きく下回っている。</p>	<p>相手や目的に応じて、言葉を言い換えながら、場に応じた話ができるように、また、話の構成を工夫し、相手に伝わりやすい話し方ができるように、授業中に話し合い活動を多く取り入れ指導を図る。</p>
書くこと	<p>本校正答率は、県の正答率とほぼ同じである。報告書を作成する際の、見出しをつける問題と伝えたい内容を補強するための資料を選択する問題が県の正答率を下回っている。また、県を上回ってはいるが、正答率が低かった問題が、3つの条件に合わせてテーマを書く問題であった。</p>	<p>伝えたい内容について、必要な資料(図や表)を見つけたり、表現技法の効果を理解した上で効果的な表現の仕方を工夫したりする学習を取り入れる。与えられた条件や指定された字数、書き方でまとめて書くことが苦手なので、条件作文等に取り組みせ、模範解答と自分の書いたものを自分で比較し自分で推敲する機会を増やしていく。</p>
読むこと	<p>本校正答率は、県の正答率をやや上回っている。説明文及び小説の読解を問う問題であったが、小説については正答率は高かった。説明文については、「文章の中心的な部分と付加的な部分を読み分け、目的に応じて要旨を捉えて条件に合わせて書く」問題の正答率が低い。問題となっている言葉の近くの表現を安易に抜き出した答えが多かった。</p>	<p>語彙が豊富でないことが読み取りの妨げになっていることが多いので、日頃から辞書の活用を促すとともに、慣用句や故事成語の習得を促しながら、読解力の向上を図る。小説における人物の心情や説明文における内容の把握等は、字数や使用する言葉などの条件をつけながら書かせる活動を授業に組み込み、条件に合わせて的確に書けるようにしていく。</p>
言語事項	<p>本校正答率は、県の正答率を大きく上回っている。漢字の読み書きは正答率が低かったのは「厳密」の読み、「拝む」「簡潔」の書き問題であったが、書きのほうはいずれも県の正答率を上回ってはいた。歴史的仮名遣いの問題の正答率が低く、仮名遣いではなく意味を答えているものが多かった。また「蛇足」を正しく用いた文を選ぶ問題も低かったが、他の問題の正答率はおおむね良好であった。</p>	<p>言語に関わる知識・理解・技能については、指導事項が多いが、習得の徹底と反復学習により、定着を図りたい。漢字の習得については今後も継続して宿題と漢字テストを連動させ、生徒の意欲を喚起する。文法や古典の知識も、時間がたつと理解していた内容も忘れてしまうので、適宜振り返りの時間を作っていく。授業中にできるだけ辞書の活用を促し、言語感覚を磨いていきたい。</p>

全体の概要

県の正答率と比べるとほぼ同じ結果である。また、観点別に見てみると、「見方や考え方」は大きく上回っているが、「技能」「知識・理解」の観点、はほぼ同じである。生活・学習状況においても、「数学の学習は好きだ」という問いに対して73%の生徒が「当てはまる、どちらか」というと当てはまる」と答えている。また、「数学の授業で学習したことは、将来役に立つか」という問いに93%の生徒が「当てはまる、どちらか」というと当てはまる」と答えており、数学に対してとても好意的な気持ちをもっている生徒が多い。

分析結果・自校の課題		改善に向けた具体的取組
見 方 や 考 え 方	「見方や考え方」の観点では、県の正答率と比べると大きく上回っている。6問中、県正答率に届かなかったのは、1問である。その問いは「グラフから資料の傾向を読み取り、答える」という問いである。	「見方や考え方」は、思考力を問う問題であるため難易度が高い問題が多い。長い文章を読みながら問題解決に必要な情報を取り出すことが重要になってくる。授業において必要な情報に○で囲ませたり、下線を引かせたりしながら丁寧に取扱いしていく。また、答えを求めるまでの過程に比重をおいたグループ活動などを取り入れた授業を行っていく。「資料の活用」の領域については定期テストなどに意識して出題していくことで生徒に繰り返し復習させていく。
技 能	「技能」の観点ではほぼ県の正答率と同じである。15問中、県正答率に届かなかったのは、5問である。その中でも差が大きかったの「80度の回転移動で移動前と後の対応する角を答える」という問いである。	「技能」に関わる問題としては、計算問題が多い。授業の最初に計算小テストを行い、単元が終わったところで中テストを繰り返し行っていく。再テストなども行い定着が不十分な生徒には昼休みや放課後の時間を利用して補充指導を行っていく。また、7年生で学習した内容を週末課題として取り組ませ、復習していく。
知 識 ・ 理 解	「知識・理解」の観点ではほぼ県の正答率と同じであるが、わずかに下回っている。11問中、県正答率に届かなかったのは、7問である。。その中でも差が大きかったの「底面が合同で高さが等しい円柱と円錐の体積の関係を比べる」という問いである。	用語や基本となる知識の習得については、繰り返し復習させる必要がある。授業では教科書に下線を引かせるなど丁寧に取扱い、定期テストなどに意識して出題していくことで、生徒に理解させていく。また、7年生で学習した内容を週末課題として取り組ませ復習していく。

全体の概要

県平均を大きく上回る項目が多く、前向きに学校生活を送ることができている生徒が多い。

①数値が特に高かった項目

項目	本校	県
授業で電子黒板や大型テレビなどが使われるようになって、今までより授業の内容が分かりやすくなったと思う。	65.9	43.4
将来の夢や目標をもっている。	63.6	43.5
テストで間違えた問題について勉強している。	40.9	22.2
授業では、生徒の間に話し合う活動をよく行っていると思う。	54.5	37.4
英語の授業で英語を聞いたり読んだりするとき、大まかな流れや大切な部分をつかみながら聞いたり読んだりしている。	50.0	33.0

分析

将来の夢や目標に向かって、授業に意欲的に取り組み、テストの復習にも取り組むことができている生徒が多い。教師も話し合い活動を取り入れた授業を行うなど、工夫した指導を展開できている。

取り組み

引き続き、生徒の学習意欲を高める授業を展開していく。授業内の発言や発表が多いことも本学年の長所である。反面、じっくりと考えて答えを導き出すことや、基本的知識を覚えることが課題の生徒も多いため、授業や家庭学習で、生徒一人一人に合った学習方法を身に付けさせたい。

②数値が特に低かった項目

項目	本校	県
土曜日は、学校の部活動に参加している。	43.2	70.3
日曜日は、学校の部活動に参加している。	29.5	48.0
読書は好きだ。	34.1	46.8
英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ。	52.3	61.7

分析

部活動加入率が6割前後であるため、休日の部活動参加は県平均を大きく下回る。また、読書離れの傾向にあり、課題である。

取り組み

学活の時間を利用して、学習プランのたて方や進路学習と関連させて休日の過ごし方の指導を行う。また、読書に関しては、朝読書の時間を確保できるように、委員会のアンケート調査などは学活等で行ったり、学級文庫の充実をはかったりして読書をする環境を整えていく。英語だけでなく、各教科を勉強する意義を伝えていく必要がある。